

学校教育目標 「自ら学び 心豊かに たくましく生きる児童の育成」



学校だより

えのき 10月号



皆野町立皆野小学校 令和7年10月1日 発行

「子どもたちのウェルビーイング」

校長 吉田 浩

10月は、校外学習や、林間学校、修学旅行をはじめ、学校行事が目白押しとなります。学校行事では、目標の一つに人間関係作りも挙げられます。もちろん、日常の学校生活においても大事な要素ですが、普段と違う環境で、信頼関係を築きながら協力することを学ぶ場でもあります。子供たちの成長にとって、心地よい「ウェルビーイング※」な環境の中での学びはとても有意義なものとなります。学校も、そんな学びをより多く提供できるよう今後も努力してまいります。

※子どもたちのウェルビーイング…その子のビーイング（存在）がこころもからだも周囲との関係や社会的にも丁度よく満たされ、心地よい状態であること…みな教育セミナー講師 山口有紗さん談

以下の文章は「アメリカインディアンの教え」と訳されることが多いですが、アメリカのドロシー・ロー・ノルトという作家の本の中の一説です。「ウェルビーイング」について考えさせられる文章です。

批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします
敵意にみちた中で育った子はだれとても戦います
ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります
ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような気持ちになります



心が寛大な人の中で育った子はがまん強くなります
はげましを受けて育った子は自信を持ちます
ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります
公明正大な中で育った子は正義心を持ちます
思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます
人に認めてもらえる中で育った子は自分を大事にします
仲間の愛の中で育った子は世界に愛を見つけます

一人一人の良さが認められる環境が、子供たちの心を耕し、安定させます。ご家庭においても、ほめる材料をじっくりさがして、子どもたちとの対話を楽しんでいただければと思います。